

(様式2)

4 学校教育計画

項目		目標・方針及び計画	
(1)	学習活動 重点1① 重点1② 重点2① 重点2②	目標	<ul style="list-style-type: none">・教育目標に即し、調和のとれた人間形成をめざしながら、学力向上のための指導を充実し、生徒の主体的かつ積極的な学習習慣の育成を図る。・英語の教科指導・課外活動・学校行事（スピーチコンテスト、英語セミナー）等を通じて、自分の考えを英語で表現できる生徒を育成する。
		計画	<ul style="list-style-type: none">①授業を重視し、授業時間の確保に努める。各教科・科目でシラバスを作成し、指導内容の精選と充実を図る。②ICTを活用した教育を推進し、生徒の学習意欲・探究心を引き出す。③互見授業や教科部会等により指導状況を随時評価、検討して指導方法の改善に努める。その際、生徒が主体的かつ対話的に深く学ぼうとする姿勢を身につけられるよう工夫する。④課題を計画的かつ継続的に課すことで、生徒の自主的学習を補助するとともに、つまずきの見られる生徒に対しては面接等を通してきめ細かくアドバイスしていく。⑤各種テストを計画的かつ効果的に実施し、事後指導を根気強く継続する。⑥英語による Input と Output の量を増やし、自分の意見や考えを英語で表現する活動に重点を置く。⑦パフォーマンステスト、実用英語技能検定、GTEC などを活用し評価することで、英語学習への意欲を喚起する。⑧日頃の学習実践の場として、英語セミナー、英語スピーチコンテスト、外部講師による講演会やワークショップを充実させる。
(2)	学校生活 重点3① 重点3② 重点3③	目標	<ul style="list-style-type: none">・自主自律の精神と心豊かな情操、集団生活での協調性・責任感そして礼儀を重んじる態度を養う。・心身共に健全な高校生活を送らせるとともに、よりよい校風の育成を図る。
		計画	<ul style="list-style-type: none">①高校生としての望ましい基本的生活習慣を身につけさせる。特に礼儀、時間の厳守、服装の整備、交通ルール・社会的規範の遵守等の指導を重視する。②学習、部活動、学校行事等に積極的に参加させ、協調の精神を培う。その中で豊かな人間性と友人間の信頼関係をつくり、学校生活を楽しく実りあるものにさせる。③学年や家庭、地域その他関係機関との連携を密にして指導し、また、生徒の実態把握につとめ、必要な調査と研究を行う。④生徒保健委員会を活性化し、感染症対策を含め自己管理の意識と能力の育成を図る。⑤心身の不調を訴える生徒や心に悩みを持つ生徒を早期に把握し教育相談を実施し、教職員による共通理解のもと支援をする。

項目		目標・方針及び計画	
(3)	進路支援 重点4① 重点4②	目標	自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる。また、自己の将来の生き方を考えさせ、職業観を育成する。
		計画	<p>① 第1学年では、授業を重視する姿勢を徹底するとともに、自分にあつた計画を立て、自主的に家庭学習に取り組めるよう段階的に指導する。職業・学部学科調べ、同窓生や保護者などによる講演会（『職業人が語る会』）を通して、生徒の進路意識の向上を図る。</p> <p>② 第2学年では、計画的・継続的な学習態度を定着させ、学力の伸長をめざす。総合的な探究の時間などで、身近な自己の将来や適性について考え、進路目標を立てる契機とする。</p> <p>③ 第3学年では、進路目標達成の段階として、さらなる学力の伸長を図る。また、生徒一人ひとりの志望にきめ細かく対応するため、面接・個別指導に重点を置き、保護者とも連携をとりながら指導にあたる。</p> <p>④ 各学年においては、PTA研修会、学年懇談会、保護者対象の大学見学会などにより、保護者との共通理解を図る。</p>
(4)	特別活動 重点5① 重点5②	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動を通して、様々な立場の人々に対する理解を深めるとともに、日常生活での相互扶助の精神の浸透を図る。また、社会奉仕や環境美化に対する意識・関心を高める。 ・図書委員会の活性化を図り、生徒がより主体的に委員会活動に取り組むようにする。 ・全校で読書習慣が身につくよう工夫を行い、生徒が教養を高めるとともに、穏やかで情操豊かな人格の育成を目指す。
		計画	<p>① 環境美化活動として、従来通りクラス単位の奉仕活動を行う。また、ボランティア委員会を中心として、正面玄関等のプランターの手入れを行う。</p> <p>② ボランティア委員会を中心に、今できる活動を工夫し、他の生徒へ参加を呼びかけ、意識の向上を図る。</p> <p>③ 図書委員会の年間計画を委員生徒に周知徹底する。</p> <p>④ 「図書館だより」編集委員会の設置。（令和2年度からの継続）</p> <p>⑤ 読み聞かせボランティアをより充実した活動に仕上げ、高校生として社会貢献できる意欲を生み出す。</p> <p>⑥ 生徒にとって、より魅力的な図書の購入と図書館蔵書の更新を適切かつ迅速に行う。</p>
(5)	その他 （国際理解教育） 重点6	目標	教科指導・特別活動・海外研修等を通じて国際理解を深め、情操豊かな人間の育成を図る。
		計画	<p>① 教科（英語・地歴など）・学校行事（スピーチコンテスト・英語セミナー・講演会）等において、指導目標の中に国際理解を具体的に盛り込む。</p> <p>② 英国語学研修（代替研修を含む）の充実を図るとともに、研修の募集PRや参加生徒による成果の発表・展示をとおして、英語・英国への理解を深める。</p> <p>③ 研修の報告書や報告会をとおして、全校生徒に国際理解を啓蒙する。</p>

(様式3)

5 今年度の重点課題 (学校アクションプラン)

令和3年度 福岡高等学校アクションプラン —1—	
重点項目	学習活動 (教科指導の充実)
重点課題	教科指導の充実・教育力の向上と自主的学習習慣の定着
現 状	<p><教科指導の充実・教育力の向上></p> <ul style="list-style-type: none">・大学進学を目指す生徒がほとんどであり、「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、教科指導の充実・教育力の向上が求められている。また、ICT環境の整備に伴い、その利活用の推進が必須である。・真面目な生徒が多いが、受動的な学習の仕方になりがちである。生徒の知的好奇心、学習意欲、探究心を引き出し、その能力を伸ばす教育の推進が必要である。そのためには、教員が授業内容や教育環境のデジタル化に伴うICT教育等に関して率先して研修することが重要である。現状はその能力や意識に個人差が大きい。 <p><進路意識の向上></p> <ul style="list-style-type: none">・進学意識は持っているが、自分が何に興味・関心があるかの認識や将来に対する展望を持っていない生徒も見られる。社会に目を向けさせて、学年に応じた進路意識の向上を図り、生徒各々が適切な進路目標を設定できるような指導が必要である。
達成目標	①互見授業の参観回数 1人3回以上 外部研修会等の参加回数 1人2回以上 (オンライン研修含む) ②生徒の学習に対する満足度 自己評価シートの学年平均 2.9点以上/4点満点 (72.5%)
方 策	<ul style="list-style-type: none">・互見授業を実施し、参観者の助言を踏まえて授業改善に努めるとともに、教科部会を開き教科全体で事後研修を行う。・外部の研修会や公開授業を随時案内し、参加を推奨する。参加した者が研修内容を教科で伝達講習し、指導法の改善に努める。 <ul style="list-style-type: none">・授業や課題等、学習への取り組みについて、生徒の自己評価を実施する。・学習状況調査や自己評価集計により生徒の実態と学習意識を把握する。・教科間で課題の与え方や内容・量を調整し、生徒の自主的学習の効果が上がるよう工夫するとともに、きめ細かい面接指導を行う。

令和3年度 福岡高等学校アクションプラン —2—	
重点項目	学習活動 (実践的英語力の充実)
重点課題	CAN-DO リストの指導目標に基づき、ライティング、スピーキングの指導を通して、自ら考え、より自在に英語で表現することのできる生徒の育成
現 状	ライティング、スピーキングの力は身につけてきているが、自分の考えを自由に表現できるレベルになるまでには、継続した指導が必要である。
達成目標	①GTEC (コミュニケーション能力テスト) の得点 1年 690点以上(80%) 2年英語コース 810点以上(80%) 3年英語コース 900点以上(70%) ②実用英語技能検定の取得率 準2級 80%以上(1年で) 2級 90%以上(3年英語コースで) 準1級 1名以上の合格
方 策	<ul style="list-style-type: none">・CAN-DO リストに基づき、それぞれの学習活動の意義を理解した上で活動させる。・ペアワークやグループワークを通して意見を伝え合い、問題を解決していく力を身に付けさせる。 <ul style="list-style-type: none">・年3回の検定のうち、必ず1回は受験するよう指導する。・2次試験の面接対策として、個別指導を実施する。

令和3年度 福岡高等学校アクションプラン — 3 —

重点項目	学校生活（生活指導の充実と健康な心身の育成）	
重点課題	基本的な生活習慣の確立と学校生活への適応	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・服装・行動などの流行に影響を受ける生徒が見られる。 ・来校者に対する挨拶や、目上の人に対する言葉遣いや接し方が不得手な生徒が見られる。 ・SNSを含むインターネット等の利用に関し、安易な書き込みや長時間利用をする生徒がいる。 ・思春期における心の問題を抱えている生徒がいる。 ・コロナ禍の現状において、感染症対策の実践の徹底が必要である。 	
達成目標	① 正しい制服の着こなしや SNS の利用ルールを守れた生徒の割合 95%以上	② 心の相談日や教育相談の実施 年間 15 回以上 ③ 健康観察、手洗い、消毒など、感染症対策の実践 実践している生徒の割合 95%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・自治委員活動の活性化 ・定期的（月 1 回）な挨拶・服装指導やさわやか運動などでの指導 ・着こなしセミナーの実施 ・HR 等でスマホ利用についての話し合いの機会設定 ・学年や保健厚生部との連携を図り、生徒の悩みや問題行動について早期発見と迅速な対応に協力して取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンセラーによるカウンセリングの必要な生徒を把握し、実施後には関係者と協議をする。カウンセラーや医師による講演会を実施する。 ・手洗い、消毒等による感染症対策の意識調査を実施する。また、調査を通して、生徒の意識を高める。

令和3年度 福岡高等学校アクションプラン — 4 —

重点項目	進路支援（学力の伸長および進路目標の設定とその実現）	
重点課題	志望実現に向けての学力の伸長 進路意識の醸成と、目標実現に必要な努力を続ける姿勢の育成	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の能力・適性に対する認識が十分でないため、将来の自分のあり方に対して、まだ主体的に考えることができていない生徒がいる。 ・計画的、継続的な学習習慣が定着していないため、目標実現に必要な学力に達していない生徒が少なくない。 	
達成目標	① 進路講話などによる進路意識の向上 校内での進路講話等 各学年年間 2 回以上	② 学習時間 平日 2 時間以上 休日 4 時間以上 週 20 時間以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生に対し『職業人が語る会』を実施し、自己の将来について主体的に考える姿勢を伸長させる。 ・2・3年生に対し、大学生による進路ガイダンスや外部講師による進路講話により、具体的な進路目標を持たせ、主体的に学習する態度を育てる。 ・3月に、卒業した3年生が2年生に講話を行うことで、具体的な進路意識と学習意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予習の徹底やFT時の小テスト、週末課題を通して学習習慣を確立させ、基礎学力の定着を図る。 ・「週間学習記録」「生徒自己評価シート」から得られた生徒の学習や生活状況に関するデータを共有し、学習習慣を確立させる指導に役立てる。 ・3年生は教科や小論文の添削など個別指導にも重点を置くことで、学力のさらなる伸長を図る。

令和3年度 福岡高等学校アクションプラン — 5 —

重点項目	特別活動（ボランティアと図書）	
重点課題	ボランティア活動の実践 委員会活動の活性化と生徒の読書習慣の定着	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア委員会や部活動を中心とした地域施設への訪問・交流等は困難であるので、コロナ対策を講じて行える活動を考える必要がある。 ・朝夕の図書館利用が活性化した実態と本の貸出数の伸び方が必ずしも比例するとは限らないことが判明した。学習センターとしての図書館ではなく、読書センターとしての図書館となるような工夫と改善を行う必要がある。 	
達成目標	① ・コロナ対策を講じて実施したボランティア活動の回数 5回以上 ・“ボランティア活動に参加してよかった”割合 80%以上	② ・「新着図書案内」や「図書館便り」などの発行回数 10回以上 ・全校生徒の年間貸出総数 800冊以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア委員会を中心に、地域施設訪問に代わる新たな活動を考え、コロナ禍でもできることを実施する。 ・全校生徒からの参加を募り、参加後の意識調査を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員が読書リーダーとなり読書の楽しみを周囲に広げることで、貸出数全体の増加を目指す。 ・「図書館だより」編集委員会や「学校祭」企画委員会を設けて、図書委員が計画的かつ円滑に活動運営を行うことで生徒の自主性を育成を図る。

令和3年度 福岡高等学校アクションプラン — 6 —

重点項目	その他（国際理解教育の充実）	
重点課題	教科指導・特別活動・海外研修等を通じて国際理解を深め、情操豊かな人間を育成する	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・英国語学研修に参加した生徒たちは、事前研修を受け英国での貴重な経験を積んで人間的に大きく成長し、外国語や外国文化を学ぼうとする強い意欲をもつようになっている。 英国語学研修は、昨年度、一昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった。代替研修として、昨年度はオンライン海外研修を実施した。 ・英語コースにおいては、英語セミナーでの6名のALTとの少人数による活動や外国人講師、グローバルに活躍する人材による講演会を実施することで、異文化交流、異文化理解のよい機会になっている。 ・英語スピーチコンテストを1年生全員が観覧し、自分の意見を堂々と英語で話す上級生の姿に感化され、実践的な語学力習得の動機付けになっている。 	
達成目標	・英国語学研修（実施できない場合は代替研修）参加生徒の充実度 研修全体を通して“とても良かった”割合 80%以上	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事、校内掲示板、学校紹介DVD等を利用して英国語学研修の成果や魅力の広報に努める。 ・学校祭など機会あるごとに広報活動を行い、より多くの生徒に魅力を伝える。 ・現地での研修に積極的に臨めるように、事前研修を効果的に組み立てる。 ・帰国後にアンケート調査を行い、充実度を測る。 ・英国語学研修が実施できない場合は、代替研修を企画し対応する。 	